義云英門仁德録卷之廿五

五

津田文庫
文庫1
1836
2

早稲田大学
圖書館藏書

義経記門仁徒源卷之十五

一、治承十年三月所々火事

附　豊の林御仁徒之事

水戸黄門光圀卿ハ源氏ニ而ハ一天之君ト成給ふ事ハ
三月所書給ふ久しき命ハ中ニ一ツ此ハ世ニ生ル事
三年ニ成ル事ハ有かたく而ハ
例ハ座り高人ハ下ニ成ル事ハ
所ニ成ル事ハ
上人ハ極ハ人ハ梅ハ実ハ

つだ文庫

010190617586

1836-2

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

法師人等し　御前にて落髪仕り候　文氏祝宰令

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

義公黄門仁德深厚之廿六

義公板平川より出参　摘事

除　陸奥国東之事

附　天和四年甲子の春二月廿九日年号改元あり　貞享元年

なる此年御黄門様の御近臣　水戸左田の郷士　黄門様の

いよ〳〵御隠居　別西山の荘を営まるる　御隠居

黄門様　七日の日を建られ　法華経講　日正

上人を請れて　経文の講　催釈の儀

三度　春　秋　行　法華講　長

[illegible]の[illegible]を[illegible]て[illegible]の[illegible]ての[illegible]れ[illegible]　将軍の
[illegible]年[illegible]を[illegible]せ[illegible]れ[illegible]遠稲葉[illegible]を[illegible]て　上使として
[illegible]酒[illegible]を[illegible]て　上意の[illegible]を[illegible]れ
[illegible]ら[illegible]に[illegible]徒[illegible]の[illegible]　上[illegible]も[illegible]を[illegible]夫[illegible]を
[illegible]御[illegible]面[illegible]の[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]　上意[illegible]れ[illegible]義[illegible][illegible][illegible]
[illegible]れ　上[illegible]
御[illegible]の　上意を[illegible]て
[illegible]　[illegible]御[illegible]
[illegible]　上使[illegible]代[illegible]を
[illegible]　将軍[illegible]

義[illegible]平[illegible]御上[illegible]平[illegible]
[illegible]さ[illegible]代[illegible]義[illegible]
[illegible]　将軍家[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

公義公の事蹟ともの中少せよ[illegible]

[illegible]

[illegible]

毎年新米百しか献ず　博人出て来り　地面をうばく　稲をとり
潜川て海陸と大川へ流の小船に大勢人夫をうけ引上らて
いくとも白子上下民家小四方今小船もるすてをかたをかたて
を所を濁て断と唱へ来るとも中上りれ義経様嘆く長を事
石道業の小船よりしか小船四人ひとりて漕ぎ
首領金の香取屋の家潜川へ合同六文を預りて九兵衛せ
物かく人夫をうけ今限としけて六文を渡し上下覚仁是世の
中の責といひて身天下の政の正しきとて上れなり又彼
相撲をとり少し大川へ流れしよく行て人夫をうけて引揚ん上り
流とは人事のみへきを所に小流を乗中小流を乗中の事

かるに小船を御解をうけて海を漕ぎ上りとかしとて長四郎
より小大川の船へ付人夫と知て上り又各自なる事なれ向井
形屋方へ来りあるを舟子の長兵人体を逆中へしとら作法なれ
主遠松平を伝小大川の口船へ来四人以上なれ番屋
の向へいくさる義経様のを活かし事なれて
詮方なく人夫七百人をくらおしに私を試向井形屋方へ
水を舟二四と数十人自分おられれ義経様大小口潜長中
海云第三を三十五日例をくへ却て夫を出長小なぬ事を長を
少下沼平の所へ入て大夜ぐろ迄ありて山のことくて
上下とも逆しを長と四方暗夜船作上りて義経様

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

義公壽門仁德・深巷之廿七

下館之八幡藪と八幡の事

附　西山下佛母の事

義公若少の時、清水隧道を開き給ひし事、諸説紛紜
なれども、今日の所、左の如し。
西山下佛母の事、義公若少の時、清水隧道を開き給ひ
しに、水元の西山に、岩石の厚の
厚敷出でたる。又、水元の西山に、
岩石の厚の所、
岩石の厚の所、
岩石の厚の所、
岩石の厚の所、
岩石の厚の所、

[illegible]八歳十五にして八幡の八幡宮に参詣して
[illegible]事の元を尋ねて
古昔漢土天竺の仏法[illegible]釋の浄土を願ふ
[illegible]の法華経の流布[illegible]
[illegible]の日の星のごとし[illegible]
[illegible]の利益にて[illegible]の霊場を[illegible]
[illegible]十八歳の時利益にて[illegible]
[illegible]八幡宮に[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]の中に日数十五日の[illegible]
[illegible]十六日[illegible]八幡の[illegible]
[illegible]
[illegible]日数十五日の[illegible]
食物を[illegible]

の井戸[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]日数十五日[illegible]
神[illegible]
[illegible]
[illegible]

下右衛門とて相伴いたれば宿の[illegible]夫婦ハ[illegible]
[illegible]年[illegible]ことの[illegible]
又今再ひてるたを[illegible]ハ此程行[illegible]
[illegible]日数十五日程[illegible]証の言葉なきれ以[illegible]
のことのハなをしと[illegible]
[illegible]命を[illegible]ハ俳諧のなを[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]と作[illegible]ハ行[illegible]
[illegible]年[illegible]家[illegible]
[illegible]人の[illegible]禁制せ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

正八幡宮の家来として彼江田四郎うてくに出あはされ
しと雖も又今日よりかけて弓矢に及ばずして今を家しかつれ
ら義仲と云ふの事ハ所詮今さ毛一ハ見合り將軍の御うしされハ
即ち家屋と云ふ連れ從三位中納云の御先をひてれ以ハ貴化の
ものたちと日本の中なり天下の福將軍の即ち今代君をえ給ふ
事を祈りて後の事の首くさとしたりの別れて家臣と共
に人今即ち一人と変化の去ふ無ひなと同言して彼宿賀に負
なじ代中と燒ケ一ハ中ハ一ハ中ハ一ハ中ハ

元の正しかりし事故今四変に及ぶ行れも国と国とを人民
以ての外呆て事少し諸方方にも義仏様の為と称し
の事なりと称して嘆て拙者に義仏様
御し数を御く入たるを以四五所に入たるを以大きなる池
にて一夜小行方しれず成て跡
方なんと思ひ居小水川流れ尽し流れて堀
尽とことなれば水少の流も強て行方
しらずなれども動しも人間なれば一人加き曇り
尽きて白玉なりしかの所にて夜の内
すもしくも動し動しも四日未だ流れ
なれば尽て流れ水に流れて紅

なれば尽て流れ水に流れて紅
さ洞院のうち尽て完けり尋常の去なれば尽小乱れて豊西
殿さ小義仏様小初め子膳せ子完の井に入たるを以一万井も
消失に覚て元四十丈程も丈程に先の殿に覚ひ
去るに石も自かさやし小良二所井も五所なれ
ば自然の内少し毎に尽小洞完なり殿小閑殿小て夜
なりけれども毎に尽小尽十丈に成て
て後に成奏を天下に成さる事の有へき変化の業なり
も従三位中納言の官位を以て屋敷に成る事な
と称つる所なれば仕方小なせられ次第小至て

小瓦五十町余りにて百一所宅の中にて行くべきなる
屋敷小四つ曲屋敷小瓦屋根とうけられ四体長にのつて八分を出流
たるふたつの方ふわうあつて高くたるまのうち逃てん
ばるかの火ねうこみ焼火の光りえくもれハねしてえ出彼変化
の所をかぞへてみくしとをとるうれハ板の蔵をかなたこなたとをつ
ばりいろう屋六更てあとをいとをとるとこ苦かりつゝ苦まて撮られ
武八末の辰ふよりのぶりたるひ又ハ洪水の流れを渡なれ逆逆
のまひ義ふ毎事をうくて事ハ豊を偏のたるへ強て事
万事をおしとゝまて女一度をあたるへふ四方を出流あれ
方ひあるる社みて多井八杉て笠木もかくぶき家根荒果て

並ひ蔵り系たんたる事端小祢さそひ又へたるまて
伏の社とゝ方もをゝ中ふかすふ燈火ハ明りをかゝげあり
屋宅荒れかふ瓦くしたるとゝ屋ふ四つ義公祢荒れたる
社檀くにのまくちの屋たるひ彼と出流あるふ長廊と
たるしたる額のいりふと方ひたる文字をくにかふ瓦くもれた
家ふ多て社檀ふ云さやろきたるひて伝家のやう神なれ
云ふ云ふ海こたるひかるとゝをとゝ流あるふ人の難逃のてく
つゝ方中に未あるひくあもたれ又をまたる貴なとあひ
所しくもををりきぬきたるる乳鼎あれ青のなき
鼎とりて臭き事たるとゝ義公祢もて臭家

の[illegible]ちさい小田[illegible]独[illegible]海[illegible]ひもひ[illegible]ちさちさ[illegible]ちしに伝[illegible]ある小[illegible]
[illegible]の金の鼎[illegible]る[illegible]と[illegible]の[illegible]又正面の[illegible]の[illegible]ふ[illegible]
[illegible]サ[illegible]天二三寸[illegible]も[illegible]を[illegible]ん[illegible]ふ[illegible]を[illegible]て[illegible]征夷[illegible]軍
[illegible]代[illegible][illegible]といふ八[illegible]の大額をうけ[illegible]ふ[illegible][illegible][illegible][illegible]
[illegible]の[illegible]数[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]の[illegible][illegible][illegible]
[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]

道といふ生ずるものとして宝くに来たるものなり兵庫へ来たんとせども
無法の切力を振むく命令ハ海内天下の賢人や神八州天帝へ告
ると雖ども天下を位置として日と天へ出る事八百六十三
藩武士に振を給ふ事ハ皆つ目ふ目ふ目ふ目ふ目ふ
藩中を立ててしとしてなかふ自分もとり先生なる義公様も先
上てしてなかふ出力を振ものして家なる利と作ふ切ふ
百十段ありしふ義公様ハ世の家の藪の中を立たる事
十五段に張り所利をもつて藪を張る物もつて八四方を長度ハ
一面の藪少ふ少しもなかふ事を刈て家ふ刈て助ふ
十五段八百万坪の位なるを秋の藪を張りて人の藪も

禁制ハ段々しとして藪の如ハ作家居の所ふ歌
ひしふ義公様の作藪を言をもなかひ人を乱ふ事を
問をし作藪を何ひしふ作ふ事刈しふの作ふ家松
後生大比丘禁制の芝藪を三ふ藪ふ八幡ふ三ふ藪を
刈ふ作て色実ふ八幡ふ作ふ藪ふ作ふ海り
藪の生をもつてカ

義公豊の仁德孫巻の八

麻酒・要元三事

附 美濃の芋の事

・義公様八幡宮の西山に佛殿の跡ありて岩屋地蔵尊入り奉て
光箭波山小中寺に大徳一の開基にて大伽藍八十坊
観世音法華堂八十社・箭波修験二百巻上人の勧請にて巻の宮
神女御殿・稲村修験八幡の郷に御勧請・薬師・六歌三百
寺社九十九社まへて是を西の山と云て毎年八幡の社人水戸
宮博小三七日に此四社の宮参小新良之部に義光の事有し
軍記屋有御代に成て国を治め世を治る

海にて第一とする人宮島小虎と申しける混雑なりしに法師あり
其名水之瀬川を渡りしに天和元年霞ヶ浦霞ヶ関見物
五千貫の新名物牧之瀬川を渡りたるに橋をしらず有
さて奥へ入りたるに武蔵野の小野有
平貴八幡太郎義家公奥州御征伐の時軍利あしく
堂へ入りて籠もりて敵を待たるに小芋を掘り喰ひたるのごとく
大木りなり花大鳴出て白籠のごとく高く兵事出来
地名となりしと申す山橋と申す
いろいろ第集り

新治郡筑波を過つ

こゝ新治の橋とそうん
きいよ和歌に昔古きを九十一首の歌あり
山橋い川のせゝも咲てあり
人の知る花とあらしん
と松しまを雁鳴て雁鳴の歌を
もち新治郡と申す新治代の郡代代官
下新屋より新屋より
五月渡会の將軍右大將新田伝説殿と遠流ありと云
剣新治郡武蔵の郡也いつしか法師と云事を知
すして古代代官郡小常陸常の郡事といつる者古

[illegible]の云伝の[illegible]

[illegible]の常陸の神の[illegible]

人の妻[illegible]

[illegible]神[illegible]布の[illegible]

留の[illegible]書[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

輝を事とせし体なりしとのたまへれいづれも宮殿にて
事なれば皇子皇女と云ふ様御殿の奮なれば数百坪の中
或は渡廊にて接続せし少しの所のみなれども若し都にたとへの
なれば藤原殿の事なり義経も屋敷は桜町殿より出来
かくて三度は度々の寝殿と唯一かく作りたるの
たとへにて皆こゝにて事なれども作りいづれも三間九
間きりも作りて中に又二間ずつ一面にたとへ
て附属の所に接続せし御殿にてのよりて
地形の地に書場面白のことく中央に
の表は門もなくして中央に廊下なる所にて
皆とこゝに及ぶるに是は義経の様にて
小屋小屋に代理にて地形は狭く部屋数多
のことくなれば清盛は是を
まの場に及ぶかつて作あり作殿にて
神仏にて西は四方吊の陸奥にて部屋人の人数を
三度と分けて日数五の場は一度の中に
ぶたをつけたるも地形にて元のことくなれば是慶の業にて
はなく今の雇清の弟の仕なりこれと作あれば
事の次にあり事の屋敷にて意も実に遠国
百人に三度の比度にまもなく毎日の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

義云林の業は法流にして
[illegible]

義云門仁徒流卷の第九

義云林法流

附 世界の果てと云わるる事

孔子東流の水を見て曰く逝く者の如斯夫
而して云ふなる者は是を以て法として
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

八幡宮に仰せ下され候を奉ず、大内を一覧なし、宮ひしと相勤の
義、[illegible]の事、仰天下の諸將軍として改事と[illegible]
私の平ひ[illegible]数十年、清仁徒を施しのひ[illegible]又は[illegible]の後[illegible]
清公の弟ハ天下の清級なるハ傾[illegible]而して[illegible]
社律園の細蓋を[illegible]
建[illegible]人の[illegible]
[illegible]ハ[illegible]孔子の[illegible]
[illegible]
[illegible]清仁徒を[illegible]
[illegible]私[illegible]
水戸[illegible]

流れ[illegible]沖の方へ[illegible]
[illegible]
[illegible]私の眼[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

義経大きふ[illegible]ひ[illegible]ふ[illegible]へ[illegible]と[illegible]事[illegible]ハ[illegible]れも[illegible]
の[illegible]をとんるふさ穴[illegible]いく[illegible]と[illegible]蛇[illegible]て[illegible]る[illegible]数十丈[illegible]て
[illegible]ふを目うけ[illegible]と[illegible]る[illegible]の[illegible]ち[illegible]
[illegible]安[illegible]俵の[illegible]に似る数百羽[illegible]代蛇[illegible]て喰[illegible]
[illegible]を喰[illegible]ハ[illegible]人[illegible]も[illegible]る[illegible]を[illegible]ハ
[illegible]仲[illegible]ふ[illegible]て[illegible]の[illegible]人[illegible]ハ[illegible]中[illegible]
[illegible]の[illegible]ハ[illegible]海蛇の[illegible]
[illegible]ハ[illegible]て[illegible]を[illegible]て[illegible]と[illegible]
[illegible]て[illegible]の[illegible]て[illegible]食[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

義経作ハ[illegible]事もけうとんと[illegible]
[illegible]と作て[illegible]
[illegible]て[illegible]
[illegible]て[illegible]
[illegible]て[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]て[illegible]
[illegible]て[illegible]
[illegible]て[illegible]
[illegible]て[illegible]
[illegible]て[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ

[illegible]五六軍とえく[illegible]
[illegible]
[illegible]

八代郡の旧和の地をそなる事一六万七千八百里ヤ[illegible]て方角八丈[illegible]
南北[illegible]八世界の果て[illegible]坂の上の田村将軍[illegible]
東夷征伐の時出[illegible]源氏の神[illegible]
[illegible]と[illegible]
遠[illegible]千四十八年[illegible]
[illegible]山を[illegible]
[illegible]
金[illegible]下[illegible]
[illegible]
[illegible]三十六代[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

五里ばかりと云ふ所に八方共小さき赤き石にてさゝあり面白
とも云へきものなれとも義経様ありと云ふ事
をもたぬ者の人きれい百姓もしらす所の海の他さるん
三十丈計とゝくて水の色さゝぎく云てとけ井こ家あるまゝ
事の外深きれい此島の中ゝ所ゝ海の如ク流海山て文
小川へさ方ゝ一ヶ所ゝ目後ゝ長くゝ所ゝ家もなれハかれ
ゝ里ゝ人の形ちのよふなる数十人何も鍬のよふなる
ゝ地を掘ゝ所ゝあれ井こ家見後も居きかゝれ流
石の義経様ゝ此島の強さゝ行ゝ後ゝ所ゝ
ゝ世界ゝ人ゝ被常盤の中ゝ

小さと云ひ下まゝ所ゝ所ゝ島ゝ家ゝ行ゝ
ゝあるゝ人ゝ情ゝなゝて海ゝ小ゝ島ゝ家ゝ南ゝ
ゝ彼御山ゝ所ゝ一ヶ夜ハ島ゝ家ゝ
大さゝ二三人の志里なる鏡のよふなる
後ゝ里ゝ水の文ゝ赤ゝ色ゝ
前ゝの服ゝ小ゝ法ゝ
又ゝ島ゝ家ゝ
ハ方ゝ
四方八方ゝ白服迫ゝ

義公黄門仁德記卷之三終

一義公様常例水戸西山に御隠居遊ばされ事

附 侍従世侍歌の事

去程小水戸黄門義公様に侍従様と見奉て老臣さま
よりはなれ御くに日数十日ばかりと御行途行る道へ出給ひ
ぬるとばかりにて長屋をたてゝ胴腹と名付まさ志ゝ
小屋をたてゝ居給へ世人八皆こゝに住給ひ
ぬとゝ小彼方元来の屋敷世さるみを一命おしとゝ八
一すゝて代方をとゝて居給ひ神くに居小ゆるて彼の方大日如

いと文字を書て見せもてれハ彼たちまちくていふやう見ハ鞭
のおもかすしと中納言の言葉より申すもれハ見てハ
目もすれ稲をしと教ひ歯をすすぎ口をすすぎ
きりもきて三日数六日を過てもみ小袖の鼻くく
ひ鼻をつけ宣ひて其中に茶を飲のみ給ひ茶の
実のようなるものを入れて食しまして
なを見られる事言ひて涙くくの事ども紅梅の箱
鏡くくなりれハ義公梅ゆるいれも接をしてる地ひて
諸地を歩ひ給ふ事を聞て有世九ゑ月ハ水戸へ
御殿あり しかるに江戸屋敷の方へ流れ出る
中上又江戸表へ参ひ給ふ迎ひ使ひ
ふしをとをとをとをとをとハ鎌倉ひ
鎌ひ中山備前守殿と申ひ
ひ方の巡礼ひ
ひ上ひ
義公ひ
風流ひ
ひて
ひ
人の
天下の事ども申上きれハ
ひ
ひ
ひ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

廣世卿と改るとのことなれば一応祝ひのことなれ
ども事柄之儀にのみ拘りて今日に至る例に成りて今日に至る
法華の檀林（能化）を選ばれきるとこの後年月相極て
流元禄十三年の十月末に財を帰せられ出して完
業も未だなりとなるべく一首の歌を詠ずる

何なるなれも初のなりは消しもの
我をいさなく死ての山路に

心を花もまれは消しもの是に歌は
見えすいふ心をもて事を定めてもなるこ
悟なる事を定めて終ふのく世られさるべし一首の歌

心上に事なくして世をもまし仏まくはるかりとして行れ
こと事のことを中ばくふこと年元禄十三年十月末
嵐の心地とおもなるかは出家ふ事物年をもあ
もれは代首とを迎行年義〳〵中生一旦又
法華〳〵法師遊と成まれるは　將軍家ゆも財和盛
かはるして世業式井大和を定ふ水を義〳〵中生れ
警編に及て業と問を設たとしくとも完本は西のこと
本尼寺の事なるを代世を業師とを行義〳〵中生れ
將軍家大ふ警かはもの遠中初会鎌倉を水戸
遂に服もまして最と日て義を保一對面

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]と[illegible]ものて[illegible]の法と成[illegible]旦ハ[illegible]所
又ハ[illegible]世[illegible]博[illegible]富[illegible]所[illegible]
[illegible]滅[illegible][illegible]ものの故事[illegible]
[illegible]ていと成[illegible]
[illegible]て[illegible]事[illegible]水戸家[illegible]
戸の四家[illegible]建[illegible]れ[illegible]
[illegible]制[illegible]

[illegible]

[illegible]

又和小一首

なき世まで[illegible]
正世[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

義経記門仁德録巻之三終

天保八年五十一月廿二日写所　津田親清所持

Mino